



校長室だより

月立小学校 校長 村上克弥
平成30年9月28日
☎55-2260 第6号

教育目標

ふるさとに誇りをもち
夢と希望に満ちた
心豊かでたくましい児童の育成



教育の土台となるもの

毎朝の光景ですが、どの子ども職員室に入り、元気に挨拶する姿は、いつ見ても、私に朝のさわやかさと活気を感じさせてくれます。このような職員室に入っただけの挨拶はどの学校でもみられるものではありません。でも、本校では当たり前な光景なのです。

この当たり前の光景が学校だけでなく家庭や地域でも行われているのでしょうか。学校だからやるのではなく、この当たり前のことができる月立小の子どもたちに育てたいと思います。

さて、本校は上記で述べたように毎朝、子どもたちが一定の決まった時刻に登校し、全校児童がそろそろことを大切にしています。このことは毎日規則正しいリズムでスタートを切ることを意味しています。つまり、子どもたちの学校での生活リズムをいつも変えない、同じものにしていくのです。めざす児童像として「だれにでもやさしい子」（基本的生活習慣の定着）が児童の成長に大きく影響を与えていると確信しているところです。

また、生活リズムの安定。それはとりもなおさず、子どもの心の安定に直結し結び付くものです。本校に着任して半年、どの学級も素直でやさしく、落ち着きのある態度で学習に臨み、そして活気ある活動や外遊びに取り組む姿は、月立っ子のすばらしいところだと思います。

子どもの毎朝の規則正しい登校。それを支える保護者、そして、地域の皆様のご支援に感謝すると共に、それが本校の教育の土台を形成していることを自覚し、教育活動を進めていきたいと思っています。

そして、本校でもう一つ大切にしているのが学力向上です。一人一人の考えや思いを引き出す授業はどうしたらよいかなど職員は指導力の向上を目指し、日々研鑽しています。子どもたちにも先生の話や友達の話をしっかり聞くことを指導してきています。家庭学習の手引き等を作成し家庭学習を行っています。本校の子どもたちがやらなければならない当たり前のことを粛々と行っていることで学力の向上につながると考えます。今後は、全校CRTテストを行い、その結果から明らかになった学校課題を、一つ一つ実践を通して解決していくよう努力していきます。

「秋分の日」に食べる「おはぎ」・「ぼたもち」

ある本に書いてありましたが、秋分の日には「おはぎ」を食べ、春分の日には「ぼたもち」を食べるのだそうです。私はどちらも同じかと思っていましたが、どうも違うらしいのです。

「おはぎ」は、萩餅に通じ、萩の花に似せて粒あんを用い、「ぼたもち」は牡丹餅に通じ、牡丹に似せてこしあんを用いて作るのだそうです。（このことは、諸説あるので本当かは分かりません。）

秋分の日を境にして、どんどん昼が短くなっていきます。いよいよ秋本番です。

「秋の夕日は、つるべ落とし」

